

第344回 大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)

日時：平成26年2月17日(月) 18:00

場所：大阪大学医学部講義棟B講堂

テーマ『糖尿病性腎症と栄養管理』

糖尿病性腎症による慢性維持透析新規導入患者数は増加の一途をたどり、最新の集計(2011年末)では16,971名(新規導入の44.2%)となっています。糖尿病性腎症の進展抑制は大きな課題であり、集学的治療による対策が講じられつつあります。本講演では、糖尿病性腎症に関わる厚生労働科研の主任研究者を務めるなど、わが国の糖尿病性腎症対策のリーダーの一人である

金沢大学大学院医薬保健総合研究科血液情報統御学

附属病院 腎臓内科 和田 隆志 先生 に現在進行中の厚生労働省・戦略研究および厚生労働科研の成果を交えてお話いただく予定です。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

講演内容

糖尿病性腎症は新規透析導入例の最大の原因疾患です。その腎、心血管病変ならびに生命予後の改善は医学的、社会的に喫緊の課題となっています。また、糖尿病性腎症例では、しばしば高血圧、脂質異常症などを合併します。一方、血糖・血圧・栄養管理などの生活習慣改善などの多角的な強化療法を通じて、糖尿病性腎症の寛解も報告されるようになってきました。したがって、糖尿病性腎症の発症・進展を抑制するためにも、栄養管理や関連するチーム医療の重要性は論を待ちません。

平成20年に登録、介入が開始された腎疾患重症化予防のための戦略研究(FROM-J)は慢性腎臓病(CKD)の診療システムの有用性を検討するものです。ここでは栄養管理を含めてチーム医療の実践がなされてきました。現在、FROM-J2研究として介入開始後5年目までの予後を検討されています。また、このFROM-Jで作成した生活食事指導マニュアルの改訂などを行い、糖尿病性腎症を含むCKD重症化予防を実践するCKD重症化予防実践事業も並行して進行しています。

急速に進む超高齢化社会を背景にした糖尿病性腎症の病態のさらなる解明、治療法の確立とともに、栄養管理、チーム医療の充実から一層の予後の改善が期待されます。本研究会では、糖尿病性腎症の現状と栄養管理、チーム医療の試みについてお話をしたいと思います。

世話人：大阪大学保健センター 守山 敏樹

E-mail: moriyama@wellness.hss.osaka-u.ac.jp

次回、第345回CNCは、消化器内科 巽 智秀先生のお世話で

平成26年3月17日(月)に開催予定です。